

教宣 せぶん

批判の声

本日付の日本経済新聞の4面に、当社の石原社長が深々と頭を下げている写真が掲載されました。見出しには『特約乱発「空手形」に』というショッキングなタイトルがついています。自動車保険や医療保険で保険金不払いが大量に起きている現状について、「損保 不払いの現場 上」という特集が組まれました。記事は「損保社が特約をつくって補償の充実を競ってきたが、契約者にとっては空手形になった。不払いの現場を追う」とあり、この問題の具体例や背景、経緯について詳細に記されています。(上)とあるので、この特集はまだ続くようです。

仕事から戻ると自席に「NEWS NAVI」が配布されていました。封を切ってみると、NEWS NAVIとともに、代理店へ宛てた「お客様からの信頼回復に向けて」というタイトルの、今回の保険金不払い問題に対する石原社長名の手紙が入っていました。『弊社と致しましてはこのような事態を厳粛に受け止め、皆様の声の一つひとつを大切に、「お客様の信頼をあらゆる事業活動の原点におく」という経営理念に立ち返り再発防止策の徹底を図って参る所存です。』『弊社といたしましては一日も早くお客様からの信頼を回復し、徹頭徹尾お客様本位に貫かれ、代理店の皆様と共に歩いていくことのできる会社を目指し、役職員一同が全力で取り組んでいく所存でございますので、是非ともご支援・ご協力を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。』とあります。

この問題に対する社会的批判の広がり、大きさをあらためて感じるとともに、会社も「表面的」にはその広がり、大きさを実感していると感じます。もちろん、この企業にはたらくものの一人として、またこの業界に席を置くものの一人として、顧客や消費者の一日も早い信頼回復に努めていかなければならないと切に思います。そのため頭を下げたり、汗を流したり、体を動かすことは決して惜しみません。

しかし、同時に、私たちへの露骨な組合差別や、雇用や生活を破壊する制度廃止問題を、平然とそして否応なしにすすめてくる東京海上日動の経営姿勢があらたまらなければ、この問題の真の解決にはならないと思います。真の信頼回復にはつながらないと思います。そこには共通して「企業利益をあげるためなら何をやっても良い」という、いまの時代に背を向ける「甘い」考えがあると思います。チェック体制の欠如という同根の問題があると思います。経営に脈々と受け継がれている、契約者や代理店そして働くものを軽視する「官僚体質」があると思います。それらがあらたまらなければ、いくら口で良いことを言っても、形を変えた同種の問題が再び起こるでしょう。私たちの「便宜供与問題に関わる組合差別問題」「制度廃止問題」について、し

ばらくすると第三者機関や裁判所がなんらかのアクションを示すでしょう。よしんば、その命令や判決を無視するような姿勢を示そうものなら、この経営は実はなにも反省していないと思います。口で言っていることと腹で思っていることはまったく違うと思わざるを得ません。

本日は、はからずも金融共闘統一行動日です。首都圏の仲間を中心に終日、東京で抗議行動を行っています。もちろん時節柄、東京海上日動社への抗議の声はあっという間に大きく、鋭いものになったことでしょう。日増しに大きくなっていく業界や当社への世論からの批判の声に、「都労委からの命令もまもらないのか」「判決にも従わないのか」という声が重ならないことを願ってやみません。